

平成7年（1995年）阪神・淡路大震災

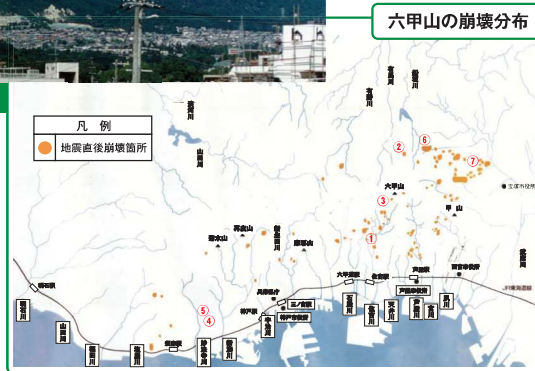
阪神・淡路大震災と六甲山



西宮市～宝塚市の六甲山の東部を眺めた震災直後の状況

風化してもろくなった花崗岩からできている六甲山では平成7年（1995年）1月17日の阪神・淡路大震災により、多数の崩壊が発生しました。

崩壊は主に、神戸市灘区、東灘区、芦屋市、西宮市、宝塚市などの六甲山の東部に多く集中しています。



阪神・淡路大震災と六甲山 神戸市東灘区住吉台

①

- **被害状況** 住吉台地区住宅街の後背地山腹が、長さ 150m、約 0.6ha にわたって崩壊しました。崩れ落ちた土石は人家、公園、道路まで達し、地域住民に避難勧告が出されました。
- **地形・地質** 五助橋断層が北に走る傾斜約 60 度の山腹斜面で、基岩である花崗岩は深層風化による「マサ土化」が著しく、転石状岩塊として混在していました。崩壊東部には、地震による滑落段差や亀裂が形成されました。
- **事業目的** 山腹斜面の拡大崩壊を防止し、斜面の安定を図るため、不安定土石の除去、法枠工等を設置し、森林への復旧と生活環境の保全を図りました。



崩壊直後



工事完成直後



令和元年（2019年）7月30日現在



崩壊直後



工事完成直後



令和元年（2019年）7月30日現在

阪神・淡路大震災と六甲山 神戸市北区有馬町大屋敷

②

- **被害状況** 山腹小崩壊跡地において、幅 40m高さ 40mの拡大崩壊が発生した。崩壊により発生した岩塊が、岩なだれのように約 100m斜面を流下し、堆積した。崩壊地直上部の小屋が半壊したが、下流部には温泉街があるが、既設の堰堤により被害をまぬがれた。
- **地形・地質** 崩壊面積 0.60ha（標高 390～520m・平均傾斜角 40 度）地質は、流紋岩及び流紋岩質の溶結凝灰岩であり、施行地付近には六甲断層、射場山断層があり、節理が発達し、風化が著しく進んでいる。
- **事業目的** 山腹の不安定土石の移動を図る土留工、山腹斜面により発生する落石を抑止する落石防止柵、崩壊崖面の拡大崩壊を防止する法枠工、不安定な状況で堆積している土砂礫の流出を防止する谷止工及び緑化等により、森林の機能回復を図る。



工事着手時 平成7年（1995年）



家屋全壊状況



復旧状況 平成12年（2000年）5月